

| | | | |
|---|--|--|--|
| <div style="font-size: 4em; font-weight: bold;">宮 陵</div> <div style="font-size: 4em; font-weight: bold;">会 報</div> | <div style="font-size: 3em; font-weight: bold;">KYU-RYO</div> | <div style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">2003 No.77</div> | <small>発行責任者</small> 社団法人 宮 陵 会 <small>広報委員会</small> 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 神奈川大学内 TEL 045-481-5661 印刷所 トッパン・フォームズ(株) |
| | <small>会費の払込みについて</small> 直接社団法人宮陵会事務局宛に送金くださるか、または、振替貯金口座(横浜 00260-6-9751)にお振込みください。その際卒業年月・学科をかならずご記入ください。 <small>現住所等の変更連絡について</small> 現住所・勤務先等に変更があった場合は、社団法人宮陵会事務局宛にご通知ください。 | | |



法科大学院 (神奈川大学大学院法務研究科法務専攻) 設置認可されました

地域に根ざし、生活者の目線で社会貢献できる法曹を養成することを目的とし、本年6月に設置認可申請を行い、2004年4月の開設に向けて準備をすすめてきた法科大学院(ロースクール)が、11月27日付で文部科学省より認可されました。早速、12月22日から前期試験の出願受け付けが始まります。

【お問い合わせ先】

- 入試について (入試センター)
Tel. 045-481-5857 (直通) Fax. 045-481-5759
- 全般について (学長室)
Tel. 045-481-5661 (代表) Fax. 045-481-2815

法科大学院の最新情報は、<http://lawschool.kanagawa-u.ac.jp> に掲載されています。

より開かれた大学を目指して

神奈川大学は、2004年4月みなとみらい21地区(クイーンズタワーA棟 14階)にエクステンション・センター(仮称)を開設します。

資格取得・生涯学習・リカレント教育など各種講座を開講します。

詳しい資料をご希望の方は下記までお問い合わせください。

【資料請求・お問い合わせ先】

〒222-8686
 神奈川大学 広報課 (住所記載は不要です)
 Fax. 045-481-9300
 E-mail: kokai-shikaku@kanagawa-u.ac.jp

平成15年度

全国支部長会議

(十月十八日)

議題「宮陵会活動の発展の道」——組織の拡大・財政基盤確立へ向けて——

平成十五年度全国支部長会議は、横浜キャンパス十六号館のセレストホールで、全国各地から地域・職域・同期・同好の八十四支部の代表と本部役員等二十三名が出席して開催された。

定刻、秋田専務理事の司会で開会され、始めに渡辺平会長が挨拶に立ち、「本日は遠隔地からも多数ご出席を頂き、また、日頃は全国各地、職域等において、ご多忙の中支部活動にご尽力頂き、深い感謝と敬意を表します。本日の支部長会議は、分科会方式で行い、支部活動についての経験なり、感じられたことをお話し頂き、今後の支部活動をますます活性化して頂きたいという期待からはじめていく会議です。本年は例年と少し趣を変え、分科会を少人数にし、色々な地域の方々と意見交換できるような編成に変えましたので、自由にご発言を頂ければ幸いです。」と挨拶された。

続いて、武笠専務理事から、本年度の役員改選に伴う人事、予算、事業計画、並びに前委員会から継続の定款検討小委員会、財政検討委員会に加えて、新たに企画委員会を設置したこと、各委員会の中間報告、さらに、配布資料についての説明が行われた。

この後、稲垣俊博組織委員長から、本日の議題に基づく各支部のアンケート(調査表)について、また、会議方式、班別分科会方式で討論を行う旨の説明があり、早速、七つの分科会に分かれて討議に移った。本部役員が進行役と書記を担当して行われた。

分科会討議終了後、全体会議に移り、各分科会で討論された内容が、第一班から第七班まで順次報告された。

各班から、報告された中で、特に共通した事項の一部を列挙すると、提起された共通の課題は、次の通りとなる。
(イ) 会員の高齢化が進んでいる。総会等の

集まりへの参加者の固定化、若い人や女性が少ない。
(ロ) 総会通知を出しても、返信が無い割合が増えている。

(ハ) 会費の徴収に苦労している。殆どの支部は、出席者の会費の中から活動の費用を捻出したり、別途に会費を徴収しているの
で、参加者が減ると、会費も集まらない。

(ニ) 大学の発展、学生の活躍などのニュースが、卒業生への母校への意識高揚や出席者が増えることにつながる。

(ホ) 地方支部の問題は、受験生や入学者が少なくななり、新しい卒業生が地元に戻ってこない。全国的に学生を確保する方法として、各地方枠がとれないか検討して欲しい。

(ヘ) 同期会の多くに高齢化が見られ、会の存続維持が難しくなっている。産業構造の変化に対応した新たな支部設立や職種別支部設立など、本部が積極的に動くべきではないか。
以上のとおり、活発かつ積極的な問題提起がなされた。

全体会議終了後、来賓として大野泰理理事長、山火正則学長、木川紘治事務局長、鈴木正太郎後援会長をお迎えし、挨拶を頂いた。
始めに、学校法人神奈川大学大野泰理理事長は学長を中心に内部の教育の問題について

る。COEプログラム、ロースタールの認可申請等も進行している。大学としても、レベルが上がってきている。
大学を取り巻く環境は、少子化による十八歳人口の減少が非常に大きな問題となっている。しかも、子供の数が減少しているにも関わらず大学は増えている。さらに、国立大学の

の独立行政法人化、もう一点は工場等制限法の廃止による大学の都心回帰等が挙げられる。この状況をどのようにして、乗り切っていくかが、神奈川大学としての大きな問題点であると考えている。そのためには、『のれん』というものを掲げていかなければいけない時代である。それは、職伝であり、また、司法試験合格者を出すこと、研究成果を上げていくこと等の一つ一つの積み重ねが、大きな発展の基礎となると思っている。



卒業生の方々へお願いしている事への謝辞が述べられた。
この後、学生によるイベントが行われ、ロスガトス(フラメンコサークル)の華麗かつ清々しい踊りが披露され、大喝采を受けた。
その後、新一年館八階の懇親会場へと移ったが、同日、午前中の箱根駅伝の予選会通過の報告に続いて、宇都宮で開かれていた全日本吹奏楽コンクールで、本学が三年連続の金賞を受賞したとの連絡が入り、会場は、学生の活躍に二重の喜びとなり、例年になく盛り上がりを見せて、本年度の支部長会議は盛会裡に終了した。

卒業生の方々へお願いしている事への謝辞が述べられた。
この後、学生によるイベントが行われ、ロスガトス(フラメンコサークル)の華麗かつ清々しい踊りが披露され、大喝采を受けた。
その後、新一年館八階の懇親会場へと移ったが、同日、午前中の箱根駅伝の予選会通過の報告に続いて、宇都宮で開かれていた全日本吹奏楽コンクールで、本学が三年連続の金賞を受賞したとの連絡が入り、会場は、学生の活躍に二重の喜びとなり、例年になく盛り上がりを見せて、本年度の支部長会議は盛会裡に終了した。

学の近況について、「一定水準以上の学生をいかに確保するのかという事で、これらの問題に対処していきたい。学生の立場に立った大学というものの実現を目指して、色々な問題に対処していきたいと考えている。
大学に関する論評でも、入学時の偏差値以上に実社会で強い大学という評価を受け、ランキングでも高等学校の先生方の評価がAランクとなっている。大学に入学してから、学生が伸びるという点で高い評価を受けている。今後、このような評価を下げることをないように努めていきたい。

昨年からの、学生による教員の授業の評価をする制度を作り、今後も隔年ごとに実施していくこととした。これは、教員の授業内容等の向上を目的としている。全学部を通してこの制度を実施している大学は数少ない。
今後、こういった色々な形で教育重視について、意を払っていききたいと思っている。もちろん、その背景にある研究についても色んな事を考えていく必要があると思っ

ている。以上のように、教育を中心としながら、研究面についても色々な配慮をし、大学らしい大学を建設していこうということで、現在、教職員一同がんばっている中で、卒業生の皆様にも、色々な形でのご支援、ご批判も含めたご意見を、積極的に大学の方へお寄せ頂ければ、より良い形で大学として発展できると思っているので、よろしくお願ひ致します。」との挨拶があった。

最後に、後援会鈴木正太郎会長から、後援会主催の地方父母懇談会へ、各支部から協力を頂いている事への謝辞が述べられた。
この後、学生によるイベントが行われ、ロスガトス(フラメンコサークル)の華麗かつ清々しい踊りが披露され、大喝采を受けた。
その後、新一年館八階の懇親会場へと移ったが、同日、午前中の箱根駅伝の予選会通過の報告に続いて、宇都宮で開かれていた全日本吹奏楽コンクールで、本学が三年連続の金賞を受賞したとの連絡が入り、会場は、学生の活躍に二重の喜びとなり、例年になく盛り上がりを見せて、本年度の支部長会議は盛会裡に終了した。

第9回 神奈川大学ホームカミングデー開催される

去る十月十九日(日)横浜キャンパス体育館において「第九回神奈川大学ホームカミングデー」が開催されました。

母校と卒業生の絆を深め、旧師や朋友との語り合いを通じてヒューマンネットワークを広げていただくことを目的として、学校法人神奈川大学と社団法人宮陵会の協賛により平成六年から始まったこの催しも九回目となりました。

今回は、卒業後五十年以上(昭和二十八年三月以前)、三十五年(昭和四十三年三月)、二十年(昭和五十八年三月)、十年(平成五年三月)、一年(平成十五年三月)の校友を中心にのご案内でしたが、その他の卒業生の方々の参加も多く、会場は熱気に包まれ大いに賑わいました。

ホームカミングデーが十月の恒例行事として定着するに伴い、これを機会にゼミナールや研究室などの集まりが大学の教室を使用して開催されるようになったり、泊りがけで旧交を温めたりという光景も見受けられ、まさにヒューマンネットワークの広がりに大きな役割をはたす貴重な催しとして定着してきたと言えるのではないのでしょうか。

当日の式典は、卒業生であるテレビ山梨のキャスター大西かやさんの司会により進められ、学校法人神奈川大学大野泰理理事長からの歓迎の挨拶、神奈川大学山火正則学長から大学の現況と学生の活躍についての報告の後、昭和二十八年三月工学部機械工学科卒業の大堀邦衛氏から参加者を代表して謝辞が述べられました。鏡開きに続き渡辺徳平会長の発声により乾杯が行われ、ウエルカムパーティーでは歓談の輪が広がる中、全国吹奏楽コンクールで通算十八回目の金賞という成績を見事



におさめた吹奏楽部による演奏や、横浜中華学院校友会により中国伝統芸能の獅子舞の披露、そして恒例の抽選会、応援指導部による校歌・応援歌、チャリデーの演技などが披露され、会場はたいへんな盛り上がりでした。

ホームカミングデーは毎年十月第三日曜日に開催することとなっています。来年も今年を更に上回る大勢の方々がキャンパスに足を運んでいただけますよう、心からお待ちしています。

神奈川大学「人類文化研究のための非文字資料の体系化」 二十一世紀COEプログラムに採択される

二〇〇一年、当時の遠山文部科学大臣が大
学構造改革案(通称遠山プラン)を発表、国公
私「トップ30」構想を打ち出して新聞紙上を
賑わしました。この名称が大学の序列化につ
ながるとの批判もあり、その後の議論を経て
現在の「二十一世紀COEプログラム」とな
りました。ちなみに、COEは、Center Of
Excellence(センター・オブ・エクセレンス
「卓越した拠点」の略です。

二十一世紀COEプログラムは、その審査
要項で「我が国の大学に世界最高水準の研究
教育拠点を学問分野毎に形成し、研究水準の
向上と世界をリードする創造的な人材育成を
図るため、重点的な支援を行い、もって、国
際競争力のある個性輝く大学づくりを推進す
ることを目的とする。」としています。

「非文字資料の体系化」

歴史民俗資料学研究科を中心として日本常
民文化研究所・外国語学研究所中国言語文化
専攻からなる本プログラムの拠点リーダーで
ある福田アジオ教授は「非文字資料」とその
「体系化」について次のように説明しています。
「一言でいうと古今東西、人間のさまざま
「いとなみ」の中で文字によって記録される
ことのなかったあらゆるものをさします。そ
う、絵図であるとか、人間の「しぐさ」とか
昔から、人間を考える学問は文字を対象にし
てきました。それゆえ文字で表現できていな
いものは価値がないとされてきた。でも、人
類文化研究の視点でみれば、文字に表現され
ない文化は、とても豊かな文化だといえるの
です。次に「体系化」ということですが一言
でいえば、事象の関連性や共通性を探し、み
んなが理解できるように整理し、わかりやす
く提示することです。」

●「研究活動」 ● 画像資料の体系化

(第一班 リーダー 福田アジオ教授)
「画像資料」を体系化することにより、今
まで語られてこなかった人間の「いとなみ」
を明らかにしていきます。つまり、絵画、絵
図などを窓口にして、人々の生活を読み解い
ていく研究活動です。

● 身体技法及び感性の資料化

(第二班 リーダー 川田順造教授)
人間のしぐさや仕来りなど「身体技法」
「人間の感性」を人類文化研究の資料とする
方法を開発し、諸文化間の比較研究を行いま
す。今までほとんど注目されなかった身体の
動きや感性のあり方から、文化の基層を解明
する研究活動です。

● 環境と景観の資料化と体系化

(第三班 リーダー 香月洋一郎教授)
過去の映像資料と現在の状況を比較し、環
境の変化を明らかにするとともに、環境に対
する認識の変化も調査・資料化していきま
す。人々の意思や想いが大地やそれを取りま
く環境にどのような足跡をとどめ、それをど
う体系化してデータ化していったらよいか
を模索し考えていく研究活動です。

● 文化情報発信の新しい技術の開発

(第四班 リーダー 佐野賢治教授)
文字資料を含め、人間の諸活動のあとに残
されたすべてを資料と捉え、大きく資料のあ
り方から人間の営み、生活を追及することを
前提とし、そのデータ化・体系化・公開化の
方法をソフト・ハードの両面から開発し、非
文字資料を文化情報として発信する方法を開
発します。

現在、本学研究担当者二十四名、他大学・
他機関等所属研究担当者十四名、ポストドク
ター三名、リサーチアシスタント三名、合計
四十四名で海外と提携しながら研究が進めら
れており、今後の研究成果が大いに期待され
ています。

吹奏楽部

海外遠征・
全日本吹奏楽コンクール金賞受賞

準会員NEWS

7月2日から12日に海外遠征をし、イエンシェピング（スウェーデン）での第11回世界吹奏楽大会（WASBE）、およびシェラッドミング（オーストリア）でのMID EUROPE 2003大会に日本代表として演奏を行い、高い評価を得て帰国しました。

「7月9日のDTホールに於けるコンサートは大成功であった。客入りも演奏も良かった。聴衆の大半が大変耳の肥えた音楽家あるいは音楽愛好家であったが、コンサート開演と同時にある種のプロの緊迫感が会場を満たした。これはすごいという驚きと感動が聴衆の顔の表情に現れ、それが舞台の上の楽団と融合し、会場全体がひとつの質量として感じ取られた。これこそまさに本物の音楽である。この理想的緊迫感は最後の曲“Les trois notes du Japon”（真島俊夫作曲）でその頂点に達した。聴衆の大喝采とブラーは本物であった。いくら押さえようと思っても鳥肌が立ってしまう、という深い感動がそこにあった。吹奏楽界に於ける巨匠、Alfred Reed氏をはじめとする世界的に著名な音楽家たちに囲まれ、日本代表として誇りにできる感動的コンサートであった。」（Akademischer Orchesterverein in Wien団員 倉永建男氏）といった感想が寄せられました。

また、10月18日に宇都宮市文化会館で開催された第51回全日本吹奏楽コンクール大学の部に東関東代表として出場し、音楽監督である小澤俊朗氏の指揮のもと、課題曲1「ウィナーズ—吹奏楽のための行進曲」、自由曲「かわいい女～A. チェーホフの同名小説による～」(作曲：田村文生)を演奏し、通算18回目の金賞を受賞しました。

11月16日には、学校法人の主催で海外遠征と全国大会金賞受賞の記念コンサートを大学体育館にて行い、1600人の来場者を集めました。

このような活動、特に海外遠征は、宮陵会はじめ後援会、大学のご支援で実現できましたことを心より感謝しております。

なお、年明け1月5日には第39回定期演奏会を横浜みなとみらいホールで開催予定となっております。皆様のご来場をお待ちしております。

(吹奏楽部)



陸上競技部

第80回東京箱根間往復大学駅伝競走
本選出場決定

私たち陸上競技部駅伝ブロックは、10月18日に行われました第80回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会におきまして、第3位で本選出場を決めることができました。

本年度は、学生3大駅伝である出雲、全日本、箱根とすべて出場権がない中からのスタートで、とても厳しい状況でした。そんな中で何とか足並みをそろえて挑んだ、前期の大きな山であった全日本大学駅伝予選会を落とし、またも悔しい思いをしました。

「何とかしなければいけない、何が足りないのか」と私たち4年生はチーム作りのミーティングを何度も重ねました。そうして入った夏合宿では、もう一度原点に戻り、個々のもつ駅伝に対する思いを一枚の模造紙にまとめ、「雪辱・誇・責任」を合言葉に、苦しいときもその一人一人の思いを目にすることで励みにしてがんばってきました。

ラストチャンスとなる箱根駅伝予選会、これを落とせば駅伝ブロックといいながら、駅伝に一本も出場できないという状況で、何としても通ってやるんだとチームのムードもまとまってきました。

そして予選会当日も朝早くから、箱根まで多くの大学関係者の方々やOBの方々に応援に駆けつけていただき、その応援の力もあって本選出場の報告ができましたことをうれしく思い、また大変感謝しております。

ただ、3位に甘んじ、課題も多く残りました。私たちはあくまでも本選が勝負ですが、この反省をしっかりと本選に生かし、更なる飛躍のために本選まで日々精進していきたいと思っております。今後とも温かいご声援のほど、よろしく願いいたします。

陸上競技部主務 比企和一（英語英文 4年）



硬式野球部

神奈川大学野球秋季リーグ(県大会)優勝!
明治神宮野球大会(全国大会)準優勝!!

9月3日(水)に開幕した神奈川大学野球秋季リーグにおいて、本学チームは8季ぶり45度目の優勝を果たしました。リーグ第一週の横浜市大戦を順調に勝ち進み、第二週春季優勝校関東学院大との対戦では1勝1敗となるも3戦目をみごと勝利し、勝ち点をあげました。10月に入ってからも、それまでの勢いそのままに神奈川工科大、横浜国大から次々と勝ち点を奪っていきました。これにより、最終週同じく勝ち点4をあげた横浜商科大とのリーグ優勝を賭けた一騎打ちとなりました。

横浜商科大との対戦では、1回戦こそ先取されたものの、エース荻野の1回戦から3回戦の先発3連投の粘りと、打撃陣の奮起により2回戦、3回戦を連取、結果全チームから勝ち点を取る完全優勝という大きな成果を挙げました。

また、4年ぶりの出場となる全国大会、明治神宮野球大会では、1回戦九州地区代表、九州国際大学と対戦。4回に2点を先取されながらも、終盤7回に一死満塁から北村の適時打で同点、さらに9回には二死一塁から田口の放った遊ゴロを相手が悪送球、球が転々とする間に一走多田が一気に本塁を陥れ、サヨナラ勝ちをおさめました。投げては荻野(3年)、岩崎(1年)の継投で、先制点以降追加点を許しませんでした。

続く2回戦準決勝では東都代表青山学院大学と対戦。序盤、相手校主軸のホームランで先取点こそ許したものの、エース荻野が我慢強く投げぬき、5回以降は三塁も踏ませぬ粘投を披露しました。リーグ戦でみせた商大戦3連投での自信が、神宮の大舞台でも大いに発揮され、また、少ない好機に打線が集中安打でできたことも勝因となりました。

そして、大きな期待を背負い迎えた四国・中国代表東亜大学との決勝戦では、3回までに大量7点のリードを奪われたものの打線が奮起。4回に後藤の右越え適時二塁打で反撃すると、7回に多田の適時安打、8回には二死満塁から北村が右中間に3点三塁打、さらに、1点を追う土壇場の9回一死二塁で、齋藤が左中間に同点二塁打を放ち同点に追いつきました。最後の望みを延長戦へつなぎたいところではありましたが、9回裏無念のサヨナラ負けとなりました。



残念ながら全国優勝こそ逃したものの、今季野球部は神奈川リーグ勢としての初の決勝進出、そして初の準優勝という輝かしい成績を残しました。また、決勝戦で見た粘りの試合はスタンドで応援を繰り広げる学生、教職員、OB、その他一般の応援者の心に残る清々しい試合となりました。現部員が初となる全国大会という大舞台で積んだ経験により、来季にはどのような試合を見せてくれるか、おおいに楽しみです。

女子サッカー部

関東一部リーグ4位。全国大会へ!!

今期、関東大学女子サッカー・一部リーグに昇格した女子サッカー部が秋のリーグ戦において、4勝3敗と勝ち越し、1年目にして8大学中4位と大健闘の成績を収めた。

リーグ戦の結果、上位4チームは12月20~25日の日程で兵庫県神戸市にて行われる全日本女子大学サッカー選手権大会(全16大学参加)への出場権を得た。

創部3年目の若いチームではあるが、FIFA World Cup USA2003大会日本代表選手として実際に試合に出場した矢野喬子をはじめ、2003ユニバーシアード大会代表選手・百武江梨など有力選手を擁する神奈川大学女子サッカー部が全国大会でどこまで戦えるのか大いに期待したい。

試合日程・結果については、大学のホームページを御覧ください。

男子サッカー部

神奈川県を制すも、関東リーグ進出ならず

今期、春先の神奈川県知事杯の優勝、総理大臣杯関東大会初のベスト8進出など着実に実力をつけてきた男子サッカー部が、神奈川県大学サッカー一部リーグにおいても6勝1分でリーグ優勝を果たした。この結果、神奈川県代表として関東リーグに昇格するための関東大学サッカー大会に出場することになった。

同大会はトーナメント形式で、一回戦では東京都一部リーグを1位で勝ち抜けてきた早稲田大学と対戦。今期幾度となく関東リーグ所属校を抜けてきた神奈川大学ではあるが、0-3と惨敗。またしても関東リーグ進出の夢は果たせなかった。

悲願の関東リーグへの進出に向けて、また新たな1年が始まる……。

神大フェスタ

去る十一月二(日)、三日(月)に開催され、五回目を迎えた「神大フェスタ」。二日は天気も良くまさしくイベント日和でした。三日は神大フェスタ始まって以来初の雨が降ってしまい、やむを得ず中止となってしまうステージ企画もありましたが、中庭メインステージを中心に、グラウンドでのスポーツ、講堂でのクラブ発表、模擬店など学内全てを使用して実施され、雨が降ったにも関わらず来場者は一万人を超えました。

恒例企画である模擬店の飲食店や露店、フ



リーマーケットには学生、六角橋商店街、地域の方など多くの方に参加していただくことができました。

また、ステージでは神大スター決定戦を始めとした企画の他に、ボランティアサークルGLOBAL☆YEN☆REAPと犬活ヨコハマによる介助犬の説明、体育会応援指導部による演技発表など、ステージ上で部活・サークルからの参加もあり、例年以上の盛り上がりを見せました。

神大フェスタ実行委員会

委員長 宮澤裕之(自治行政二年)

平塚祭

去る十月二十五(土)、二十六日(日)の二日に渡り平塚祭が開催されました。当実行委員会及び関係者の方々の気持ちに伝えるかのように青空の下、両日延べ三千名以上の御来場者を数えました。今年度のイベントは昨年度大好評であったお笑いライブ、ピンゴ大会に加え、今年初めて花火を打ち上げました。二十五日には厚生棟内特設ステージにてマジシャンの「マギー審司」とお笑い芸人の「ハレルヤ」を、二十六日には厚生棟前メインステージにてお笑い芸人の「アンジャッシュ」を迎え、両日ともに六百から七百人近い観衆を集めました。最近ではTV出演をしていることも影響して多くの方々にご覧いただく機会も増えました。最近ではTV出演をしていることも影響して多くの方々にご覧いただく機会も増えました。

また初日の十八時二十分からは神奈川大学湘南ひらつかキャンパス内の陸上競技場から花火を打ち上げ、大迫力の光景に足を止める姿が多く見られました。例年同様、学生を中心とした模擬店も大盛況であり、祭のような賑やかな雰囲気を作っていました。今年度が昨年以前と大きく異なることのひとつに、理学部及び経営学部の関係者の方々の協力により研究室及びゼミナールの公開が大規模に行われました。平塚祭本部や会場周辺には非常に強く興味を持たれた一般来場者の姿も見られ、文化的交流も行われました。



理学部及び経営学部の関係者の方々の協力により研究室及びゼミナールの公開が大規模に行われました。平塚祭本部や会場周辺には非常に強く興味を持たれた一般来場者の姿も見られ、文化的交流も行われました。

今年度の平塚祭は「彩」というテーマから受ける印象の通り、色彩豊かな企画と性別、年齢等を問わず多くの人々で賑わいました。平塚祭実行委員会として四月から活動してきました当日が終わるまで非常に大変でしたが当日のご来場者の方々を見て「やってきてよかった、やってきたことは間違いではなかった」と実感することができました。多くの方々に支えられ、このように盛大な「平塚祭」を迎えることができたのも学校関係者、地域の方々等のご協力によるものが大きいと感じております。平塚祭を終えて今残っているものは「楽しかった」と心から思えることです。ありがとうございました。

平塚祭実行委員会

委員長 広田正史(生物科学三年)



◆本部だより◆

【新支部紹介】

米国ロスアンゼルス支部

支部長 島 佳嗣(55賢)

連絡先 5845 Fincrest Dr.R.P.V,CA90275

電話 (310) 541-0632

【新支部長紹介】

山形支部

支部長 荒木 宗之(32経)

連絡先 〒991-0034 寒河江市栄町三一二七

電話 (0237) 86-5027

ご結婚おめでとうございます

次の方から結婚の通知がありました。

15・9・15 村山宏幸 平8情報専攻博士前

神奈川大学情報化推進本部

訃報 謹んでお悼やみ申し上げます

| | | |
|--------|----------|---------------------------------------|
| 川畑 篤輝 | 15・8・26 | 本学経済学部教授 |
| 小川 徹太郎 | 15・7・8 | 本学非常勤講師 |
| 村橋 三好 | 15・11・14 | 本学名誉博士・代議員 14賢 |
| 加藤 一昶 | 15・11・12 | 本学名誉教授・元法学部教授 |
| 大河内 正陽 | 15・6・1 | 元本学工学部教授 |
| 平良 俊雄 | 15・9・21 | 名誉教授・元本学工学部教授 |
| 木村 宏 | 15・11・6 | 元本学理学部教授 |
| 久武 雅夫 | 15・10・8 | 元横浜専門学校 高等商業科教授 |
| 井上 裕子 | 15・4・11 | 本学元非常勤講師 |
| 井上 孟 | 15・4・15 | 代議員・元理事 |
| 青木 忠男 | 15・9・4 | 元神奈川大学審議役 38経 |
| 石橋 延夫 | 15・5・9 | 本学事務職員・ 人事室付課長 52英 本学理学部情報科学科助手 |

| | | |
|--------|----------|----------------|
| 藤沢 梨紗利 | 15・5・20 | 顧問 |
| 工藤 博信 | 15・6・16 | 元青森支部長 |
| 笹邊 泰正 | 15・11・8 | 元岡山支部長 |
| 秋山 好太郎 | 15・7・22 | 元藤沢支部長 8賢 |
| 長島 英雄 | 15・7・22 | 神奈川県下学校教職員会支部長 |
| 福井 浩 | 15・4・10 | 平塚支部副支部長 43賢 |
| 伊藤 謙三 | 15・6・9 | 元代議員 16・12商 |
| 廣岡 大三 | 15・11・11 | 廣岡 一雄 |
| 菊池 則夫 | 15・13・7 | 秋葉 正忠 |
| 高木 正忠 | 15・13・8 | 松木 茂士 |
| 坂下 久 | 15・14・3 | 坂下 久 |
| 煙草 義雄 | 15・13・9 | 煙草 義雄 |
| 延原 喜雄 | 15・14・7 | 中島 亮三 |
| 吉岡 直彦 | 15・13・12 | 越村 重理 |
| 北村 辰夫 | 15・14・5 | 野村 治重 |
| 福田 清則 | 15・14・6 | 土棚 周次郎 |
| 中山 辰彦 | 15・14・3 | 中山 辰彦 |
| 塩沢 哲夫 | 15・13・5 | 塩沢 哲夫 |
| 有馬 純俊 | 15・15・2 | 加藤 正民 |
| 吉田 孝一 | 15・15・9 | 黒田 孝一 |
| 佐藤 審也 | 15・14・6 | 池田 満正 |
| 赤野 欽一 | 15・14・4 | 赤野 欽一 |
| 五十嵐 正善 | 15・14・2 | 米谷 末生 |
| 米谷 末生 | 15・11・2 | 貞包 克己 |
| 大柿 真澄 | 15・13・9 | 竹安 善成 |
| 佐藤 英佑 | 15・14・8 | 佐藤 英佑 |

| | | |
|--------|----------|--------|
| 松永 義夫 | 18・9・14 | 松永 義夫 |
| 田口 幸男 | 18・9・12 | 田口 幸男 |
| 永富 栄 | 18・9・12 | 永富 栄 |
| 小芝 重太郎 | 19・9・3 | 小芝 重太郎 |
| 柴田 利雄 | 20・9・11 | 柴田 利雄 |
| 鈴木 登 | 20・9・7 | 鈴木 登 |
| 津久井 芳郎 | 20・9・11 | 津久井 芳郎 |
| 西野 禎男 | 22・13・10 | 西野 禎男 |
| 俵 清 | 22・13・8 | 俵 清 |
| 筋 郁夫 | 22・14・7 | 筋 郁夫 |
| 丸橋 孝 | 22・15・6 | 丸橋 孝 |
| 中川 喜朗 | 22・12・7 | 中川 喜朗 |
| 小島 泰広 | 23・12・7 | 小島 泰広 |
| 戸部 厚福 | 25・8・9 | 戸部 厚福 |
| 羽田 勝 | 25・8・9 | 羽田 勝 |
| 足達 福司 | 25・14・6 | 足達 福司 |
| 安藤 次郎 | 25・14・12 | 安藤 次郎 |
| 小問 太七 | 25・14・5 | 小問 太七 |
| 西川 万治 | 26・14・7 | 西川 万治 |
| 香川 秀夫 | 28・8・4 | 香川 秀夫 |
| 安部 川幸一 | 28・15・5 | 安部 川幸一 |
| 長瀬 仁 | 29・13・5 | 長瀬 仁 |
| 加藤 和男 | 30・14・5 | 加藤 和男 |
| 竹田 政雄 | 30・14・7 | 竹田 政雄 |
| 内倉 政雄 | 30・15・5 | 内倉 政雄 |
| 森 陸彦 | 31・15・5 | 森 陸彦 |
| 一ノ関 主計 | 31・15・5 | 一ノ関 主計 |
| 佐藤 喜市 | 32・14・12 | 佐藤 喜市 |
| 篠原 千尋 | 32・14・3 | 篠原 千尋 |
| 藤田 敬嗣 | 33・15・3 | 藤田 敬嗣 |
| 橋本 勉 | 34・14・1 | 橋本 勉 |
| 田島 昭義 | 35・15・1 | 田島 昭義 |
| 福田 勝司 | 35・14・1 | 福田 勝司 |
| 石嶺 利夫 | 35・11・5 | 石嶺 利夫 |
| 畑山 芳朗 | 35・13・3 | 畑山 芳朗 |
| 山崎 勉 | 36・14・3 | 山崎 勉 |
| 佐和山 祝 | 36・15・3 | 佐和山 祝 |
| 山下 耕作 | 37・14・1 | 山下 耕作 |
| 花井 耀一 | 37・15・1 | 花井 耀一 |
| 鈴木 征夫 | 38・12・11 | 鈴木 征夫 |
| 吉成 弘 | 38・14・11 | 吉成 弘 |
| 柏木 利矩 | 38・14・10 | 柏木 利矩 |
| 酒井 利隆 | 38・14・19 | 酒井 利隆 |
| 島本 利二 | 38・14・18 | 島本 利二 |
| 蔵岡 昭男 | 38・14・18 | 蔵岡 昭男 |

| | | |
|--------|----------|--------|
| 金子 征夫 | 39・14・5 | 金子 征夫 |
| 阿字 暹 | 39・14・12 | 阿字 暹 |
| 阿村 暢一 | 39・14・12 | 阿村 暢一 |
| 森村 暢弘 | 39・14・7 | 森村 暢弘 |
| 大政 治人 | 39・15・11 | 大政 治人 |
| 大政 清隆 | 39・15・11 | 大政 清隆 |
| 鴛海 大生 | 39・15・11 | 鴛海 大生 |
| 川原 芳野 | 39・15・11 | 川原 芳野 |
| 飯田 寛士 | 40・15・11 | 飯田 寛士 |
| 藤田 寛士 | 40・15・11 | 藤田 寛士 |
| 網谷 裕功 | 40・15・11 | 網谷 裕功 |
| 今村 優 | 40・15・11 | 今村 優 |
| 佐藤 主亮 | 40・15・11 | 佐藤 主亮 |
| 横倉 祐一 | 40・15・11 | 横倉 祐一 |
| 横山 伸一 | 40・15・11 | 横山 伸一 |
| 沼田 吉武 | 40・15・11 | 沼田 吉武 |
| 宗像 吉武 | 40・15・11 | 宗像 吉武 |
| 知野 利蔵 | 40・15・11 | 知野 利蔵 |
| 水野 裕宣 | 40・15・11 | 水野 裕宣 |
| 友沢 鉄太郎 | 40・15・11 | 友沢 鉄太郎 |
| 安藤 実 | 40・15・11 | 安藤 実 |
| 梅沢 建夫 | 40・15・11 | 梅沢 建夫 |
| 滝波 賢二 | 40・15・11 | 滝波 賢二 |
| 富田 孝 | 40・15・11 | 富田 孝 |
| 宮治 仁至 | 40・15・11 | 宮治 仁至 |
| 真鍋 正俊 | 40・15・11 | 真鍋 正俊 |
| 山本 寿雄 | 40・15・11 | 山本 寿雄 |
| 大井 和彦 | 40・15・11 | 大井 和彦 |
| 坂本 善陸 | 40・15・11 | 坂本 善陸 |
| 高橋 詠嗣 | 40・15・11 | 高橋 詠嗣 |
| 石山 修司 | 40・15・11 | 石山 修司 |
| 有野 卓哉 | 40・15・11 | 有野 卓哉 |
| 寺山 公男 | 40・15・11 | 寺山 公男 |
| 原 俊哉 | 40・15・11 | 原 俊哉 |
| 大谷 建也 | 40・15・11 | 大谷 建也 |
| 横内 建也 | 40・15・11 | 横内 建也 |
| 高橋 さゆり | 40・15・11 | 高橋 さゆり |
| 蛭間 英二 | 40・15・11 | 蛭間 英二 |
| 中森 隆 | 40・15・11 | 中森 隆 |
| 遠山 研二 | 40・15・11 | 遠山 研二 |
| 大沢 洋 | 40・15・11 | 大沢 洋 |
| 長久保 裕 | 40・15・11 | 長久保 裕 |
| 住吉 知志 | 40・15・11 | 住吉 知志 |
| 白石 知志 | 40・15・11 | 白石 知志 |

「訃報欄」
誤りがありましたので、次のように訂正させていただきます。大変ご迷惑をお掛け致しました。心よりお詫び申し上げます。
(誤) 阿部晴夫→安部晴夫

お詫びと訂正 会誌「宮陵」第52号

神大のマスコット 人形完成!



この神大のマスコット Ms.KANA&Mr.JINは一九九八年創立七〇周年の記念行事の一環で募集し、決定されたものです。それ以降、いろいろな所で目にした方も多と思います。そのマスコットが今回、ぬいぐるみになって登場しました。

| | | |
|--------|-------|--------|
| 【販売価格】 | 大：1体 | 800円 |
| | 2体セット | 1,500円 |
| 【販売場所】 | 小：1体 | 500円 |
| | 2体セット | 900円 |

【販売場所】 横浜キャンパス総務課
湘南ひらつかキャンパス庶務課
附属学校事務室

「問題解決能力養成講座」 開催される!

キャリア支援の一つとして、就職部主催の「問題解決能力養成講座」が昨年につづき開催されました。激変する企業環境の中で、「自ら課題を持ち、問題に対して果敢に挑戦し、取り組み、課題を解決していく人材」が企業では求められています。この講座は、神大出身者をはじめ社会の第一線で活躍する社会人の方々に講師に招き、どのような問題を発見し、解決してきたかを語ってもらい、学生の「価値観の形成」や「問題解決能力」を養成していくものです。「社会ではどのような変化が起きているのか」、「このよ

うな変化に対応するためには、学生はどのように大学生活を送ったらいのか」をテーマに横浜キャンパスで六回、湘南ひらつかキャンパスで三回、開催されました。

会場は三年生を中心に多くの学生が集まりました。講演では、目的意識を持つこと、自分の考えを持ち自分の言葉で表現すること、よい友人をたくさん持つこと、社会に対する関心を持つこと等、ビジネスの最前線で活躍する先輩からのメッセージを必死に受け止めようと真剣に聞き入る学生の姿がみられ、活発な質疑応答が交わされました。また講演後も個別に質問をするなど、多くの収穫を得たようです。

神大の歴史 (19)

復活した「横浜総合大学構想」

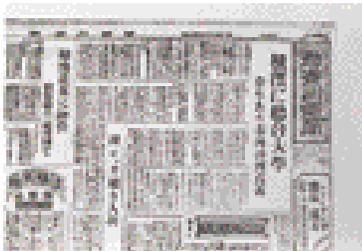
戦後の一九四七(昭和二二)年三月の教育基本法、学校教育法の公布によって六・三・三・四制の新たな学校体系が示され、それまでの高等教育機関は新制大学へ一元化されることとなった。

このような方針が示された当時、横浜には大学は一校もなく、高等教育機関としては、官立の横浜高等工業学校(一九四四年から横浜工業専門学校)、横浜高等商業学校(一九四六年から横浜経済専門学校)と市立の横浜商業専門学校(一九四四年から横浜市立経済専門学校)、横浜医学専門学校、そして私立の関東学院と本学(横浜専門学校)の六校の専門学校が存在するだけであった。戦時中、横浜の専門学校は、官立工専を除き、すべて

が空襲による被災を受け、戦後は占領軍に接収を受けるなど厳しい状況におかれ、新制大学は総合大学が原則とされていたので、いずれの専門学校も単独では大学への昇格は極めて難しいとされていた。

このような状況下で、大学の地方移譲論も議論される中、戦時中に最も甚大な被災を受けた市立の経済専門学校の関係者や、そして市の当局者でもある石河横浜市長などが中心となって横浜の官・市・私立の専門学校を統合した「横浜総合大学」を設立しようとする動きがあり、本学も一時この計画に賛同していた。しかし、この動きは結局、私立を外し、官と市立の専門学校を統合した「横浜総合大学構想」となり、一九四七年末まで運動は続けられたが、大学の地方移譲論が立ち消えとなった段階で官立経専が単独昇格の意向を明らかにし、「横浜総合大学構想」も具体化しなかった。また、この「横浜総合大学構想」は、横浜に大学設立をという市民の要望でもあった。

この約五六年前の「横浜総合大学構想」が、今回の横浜市立大学の再検討の過程で「新・横浜総合大学構想を推進する会」が、横浜市大と横浜国大の合併・統合を軸とした「新横浜総合大学構想」を発表、復活することとなった。この構想は、横浜市が市大の「大学改革推進・プラン策定委員会」の答申「市大の新たな大学像について」に応じた改革案を具体化することとなり、採用されそうもない。しかし、横浜市に「総合大学」を実現させるためには、戦後改革期に提案され、復活した横浜市大と横浜国大の統合案は極めて貴重な構想である。(S)



戦後の横浜総合大学構想を報じる新聞



横浜キャンパス講師

- 若松茂美氏 (一橋大学講師、元マツキンゼ I&カンパニーパートナー)
- 植松伸夫氏 (株)スクウェア・エニックス、作曲家・音楽プロデューサー)
- 宇南山仁氏 (セイコーインスツルメンツ(株)科学機器事業部管理部部长)
- 杉野 正氏 (しなの鉄道(株)代表取締役社長)
- 新井三夫氏 (ネットトヨタ神奈川(株)代表取締役社長)
- 尾島和雄氏 (株)日経ホーム出版社、日経トレンディ編集長)
- 橋本佳奈氏 (株)イーディーワン代表取締役会長、パソナカレッジ校長)

学生時代の懐かしいエピソードや風景など、会員の皆様からの原稿や写真をお待ちしています。

【送付先】

〒221-0802 横浜市神奈川区六角橋

三二二七一
社団法人宮陵会 広報委員会宛